

「日本を紹介しよう」(全 10 時間)

授業者 伊藤 光 ・ Wesley Folmar

実践のポイント

この実践では、北海道教育大学と共同で制作した研究開発学校オリジナルの各種教材を使用しました。ALT に日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事について、自分の考えも交えて簡単に発表することを通して、相手に配慮しながら、既習の語句・表現の中から必要なものを活用してコミュニケーションを図ることができるようにしたものです。

「主体的・対話的で深い学び」を保障し、子供の資質・能力の育成を図ることができるよう、コミュニケーションの目的・場面・状況を単元の開始期で明らかにしました。そして目的の達成に必要な語句・表現を押さえ、班の友達と役割分担をして書画カメラ、プロジェクター、タブレット端末等の機器を活用しながら発表するための学習を展開できるようにしました。

授業のねらいと展開

この授業のねらいは、日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事について説明するために必要な語句・表現等を理解し、自分の考えも交えて相手に配慮しながら簡単に発表することができるようにすることとしました。そして、表 1 に示すような資質・能力を身に付けた子供の育成を目指しました。

表 1 資質・能力を身に付けた子供の姿(例)

- ① 日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事について説明するために必要な語句・表現等を理解している。
- ② 語句・表現を、綴りや語順等に気を付けながらカードに正しく書き写している。
- ③ 日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事についての説明や自分の考えを、話したり書いたり、質問に答えたりするなどして表現している。
- ④ 既習事項を基にして単語を推測して読んだり、必要な語句・表現を選択して話したり書いたりしている。

これらを達成できるよう、本単元では次のような学習活動を展開しました。

- コミュニケーションの目的、場面、状況と到達目標を知り、学習計画を立てる。(第 1 時)
- カルタやクイズ等を通して、日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事について説明するために必要な語句・表現等を知る。(第 2~4 時)
- 発表してみたいと思う内容に基づいた意図的な班をつくり、班ごとに発表内容を考えたり発表の練習をしたり、全体での発表リハーサルをしたりする。(第 5~9 時)
- ALT に発表をし、ALT からの質問に答えたりコメントをもらったりするとともに、単元の学習全体の振り返りを行う。(第 10 時)

目的等を明らかにする



必要な語句・表現を押さえる



班で発表する内容を考え準備する

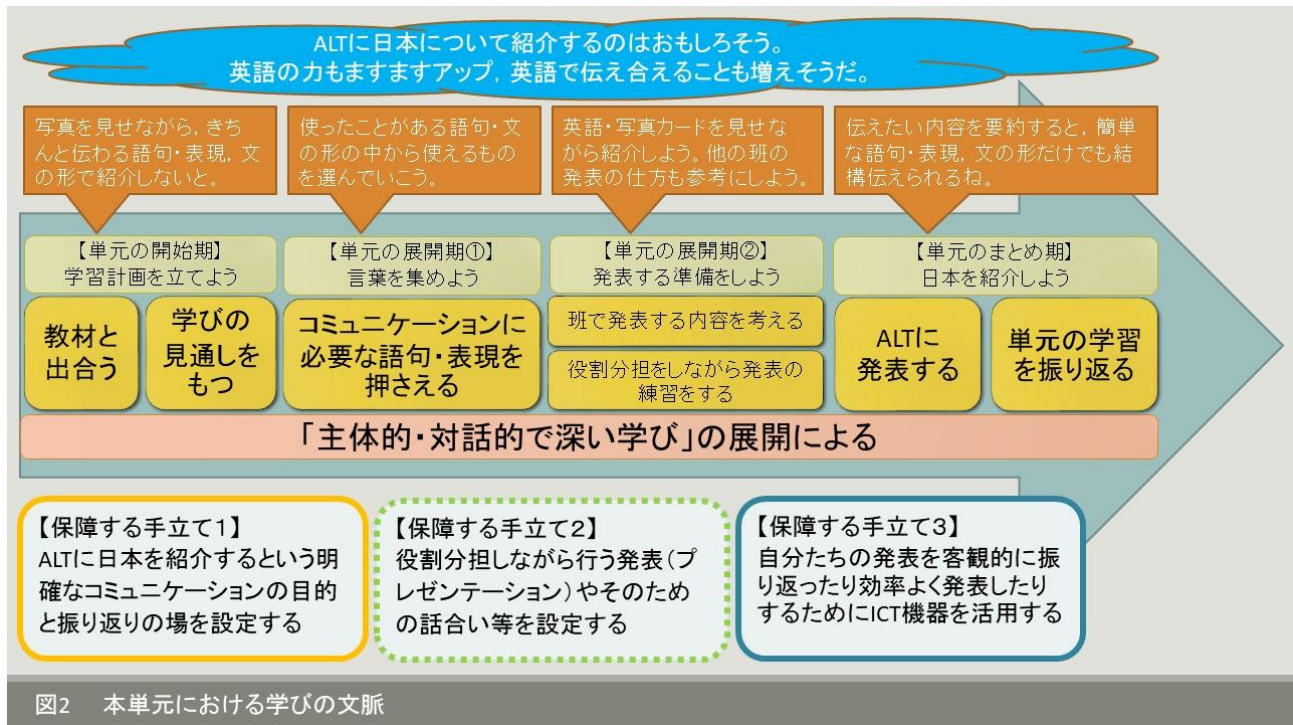


役割分担をしながら発表の練習をする

ALT に発表する

実践のここに注目！

視点1：資質・能力の育成を支える「学びの文脈」

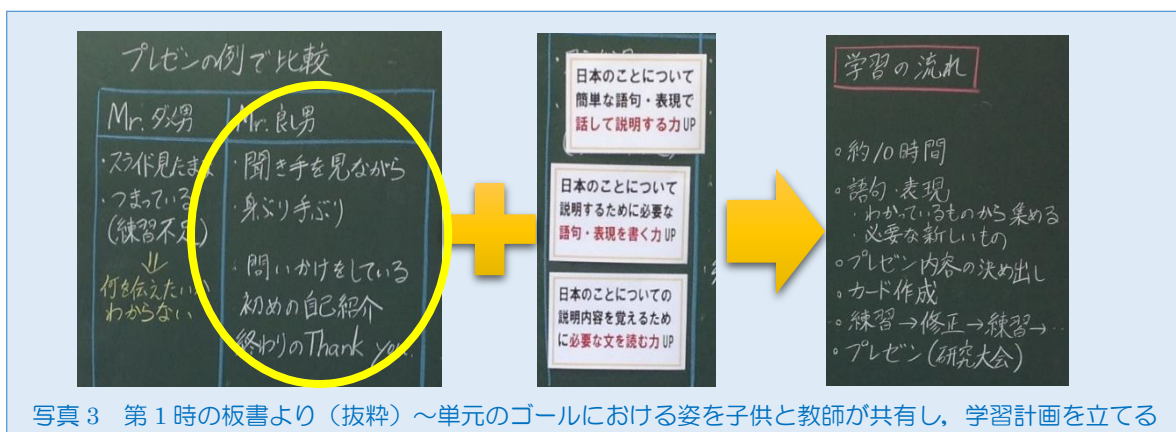


資質・能力の育成を目指して「主体的・対話的で深い学び」を保障するためには、子供の思いや願いを見取ることがとても重要です。それは子供自身が学習の見通しをもつことで、より主体的に学び続けることができるからです。このため単元の開始期には単元の学びのゴールを示し、それに至るためにはどのように学習を進めたらよいかを子供と共に考え、設定することを特に大切にしました。

同時にその学びの見通しが単元の目標に沿っている必要があります。目標の達成に向けて適切な学習活動を設定し、「学びの文脈」（図2）を構想することが重要です。

学びの見通しをもつための支援として、例えば写真3のように、ALTへの発表のイメージをもてるよう、学習で使うものを提示しながら、発表の望ましい姿とそれとは真逆の姿の例をそれぞれ視聴する場を設定しました。両者を比較することにより、子供たち自身が学習を通して目指す姿を明確化できるようにしました。

さらに子供たちがより必要感をもって学び続けることが出来るよう、単元の学習を通して身に付けさせたい英語の力を、小学校英語科で設定している「単元の到達目標」から引用し示しました。この上で、それらを達成できるような学習計画を子供とともに立てました。



視点2：「主体的・対話的で深い学び」を保障する手立て

【手立て1】明確なコミュニケーションの目的・場面・状況と振り返りの場を設定する

課題を解決するために、英語の語句・表現、適当な文の形を使う必然性

【明確なコミュニケーションの目的・場面・状況を設定する】

《目的》

ALTに日本を紹介する。

《場面》

ALTに英語・写真カードを提示しながらグループで簡単にプレゼンテーションを行い、ALTからの質問に応じる。

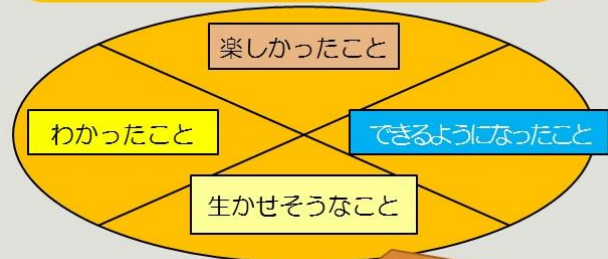
《状況》

ALTは日本に住んでいるがいろいろなことを詳しく知っているわけではない。

既習の内容との比較をしたり、これまでの学習の仕方を想起したりしながら、目的達成までの見通しをもつ。

【学習の振り返りの場を設定する】

- ・ 振り返りカード(CAN-DOチェック形式)
- ・ 全体での共有(振り返り内容を多面的に捉えるためのXチャート)



学習成果を実感したり、自分や友達の学習のよさを認め合ったりする。

図4 本単元における主体的な学びを保障するための手立て

子供が課題を解決するために、英語の語句・表現、適当な文の形を使う必然性を感じながら学習を進め、より主体的に学ぶことが出来るよう、図4のような手立てを講じました。

(1) 明確なコミュニケーションの目的・場面・状況を設定する

子供が主体的に学習を進めるためには、単元のゴールにおける姿と目標達成に至る見通しをもつことが大切です。そこで本実践では図4左のようなコミュニケーションの目的・場面・状況を設定しました。それを子供が捉えられるよう、教師が発表例の動画を制作し、それを見ることで発表のイメージをもつ場を設けました。さらにALTに日本を紹介する際に目指す姿を明確にするために、既習内容(自分たちの町にある名所・名物の紹介や行ってみたい外国とその理由の説明)やこれまでの学習の仕方を想起しました。

(2) 学習の成果を実感し共有できる振り返りの場を設定する

子供が学習を進める中で得た成果や課題は、次の学習や自分の生き方、将来との関わりをもたせることが大切です。本実践では図4右のような振り返りを行いました。その際に使用した振り返りカードには、図5のように単元の中で活用した技能に関する成果を具体的に見出せるよう表1に沿ったCAN-DOチェック形式の項目を掲載しました。

あわせて、一連の学習を評価の観点に即した視点で振り返り、共有できるようにすることも大切です。そのため、振り返りカードには楽しかったこと・わかったこと・できるようになったこと・生かせそうなことの視点で振り返り内容を書く自由記述欄を設けるとともに、板書の際には写真6のようにXチャート形式で表しました。



図5 単元末に使用した振り返りカード

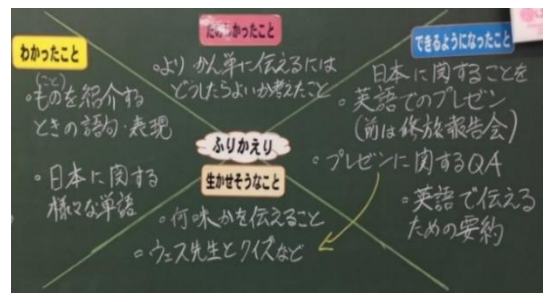


写真6 第10時の板書の一部(学習の振り返り内容の共有)

【手立て2】 役割分担しながら行う発表（プレゼンテーション）やそのための話し合い等を設定する

学習で用いている語句・表現、文の形を活用し、友達と協力して課題解決を図る

【役割分担しながら行う発表（プレゼンテーション）を設定する】

- ・ 簡単な英語を使って行える内容
- ・ 4人グループでの役割分担
- ・ 発表してみたいと思う内容に基づく

意図的なグループ編成

- ※ 代表的な日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事それぞれの一覧の中から5つ選択させる事前アンケートを行った
- ※ ALTになるべく多くのことについて紹介するために、他の班と発表内容が重複しないよう調整

【課題解決のための話し合い等を設定する】

- ・ 紹介するための情報や考えを整理
- ・ 発表内容に合う語句・表現を選択
 - ※ 語句・表現リスト
- ・ グループでの練習や全体でのリハーサル
 - ※ プレゼンチェックシート
 - ※ 相手に配慮した発表を行うためのポイント
- ・ 改善点の見出し

4人で役割分担すると無理なく発表できる！

It's very nice! など自分の考えも伝えられるよ。



折り紙は、色や作れるもので紹介するといいいね。

カードを見せて話しているだけだとわかりづらいね。

説明に合わせて写真を指さしたり拡大したりしよう。

図7 本単元における対話的な学びを保障するための手立て

学習で用いている語句・表現、文の形を活用し、友達と協力して課題解決を図ることができるよう、図7のような手立てを講じました。

本単元においては、自分が伝えたいと思う内容を、相手（ALT）に配慮しながらよりよく伝える方法を見出していくことが大切です。そのためには、自分の発表を客観的に見つけ、改善していく必要があります。そこで本実践では、4人グループを編成し、他者からの評価を得やすい環境をつくりました。そして課題解決のための話し合いや発表の練習を効率よく行えるよう、相手に配慮した発表にするための視点を明確にしました。

（1）役割分担しながら行う発表の設定

グループは、子供1人1人が発表してみたいと思ったものに基づく4人編成としました。発表内容は簡単な英語（身近なもの・ことを表す英語に加え、自分の気持ちや考えを伝え合うための語句・表現など）で行えるようにし、3つの役割を交互に分担するようにしました。

- ① 英語で説明する
- ② 説明に合わせて写真を拡大させる
- ③ 説明している場所を指し示す

（2）課題解決のための話し合い等の設定

発表内容に合う語句・表現、文の形を活用できるよう、「語句・表現、文の形リスト」（図8）を用意し、それを使いながら情報や考えを整理していく話し合い（写真9）を設定しました。子供たちは発表内容に合う語句・表現を選び、ALTに説明をするために声に出して読んでみたり、「英語・写真カード」を作る際に綴りを確かめたりしていました。

* 資料 日本の行事編

| 発表するものを指し示して説明する | 写真を指し示して説明する | 目的を説明する | 目的、当てているもので説明する | 使うことを説明する |
|----------------------------|--|--------------|-----------------------|---------------------------------------|
| This is ~./ They are ~. | This is ~./ They are ~. | It's ~. | It's ~. | It has ~. |
| hinamatsuri | the Dolls Festival | on March 3rd | for girls | |
| kodomo no hi | the festival carp flags armor and helmet | on May 5th | for boys | |
| tanabata | the Star Festival a bamboo tree wish cards | on July 7th | like a Christmas tree | an old story of Orihime and Hikoboshi |

図8 語句・表現、文の形リスト（一部抜粋）



写真9 班での話し合い

また、相手に配慮した発表を行うためのポイントを学級全体で共有し、友達と改善点を具体的に見出させるよう、発表の練習やリハーサルの際に、図 10 のような「プレゼンチェックシート」を用意しました。子供は常にこれを意識し、よりよい発表をつくっていくための話し合いや練習を重ねることができました。(写真 11)

6年()組()番 氏名()

プレゼンチェックシート【他のグループ】
(学習のゴール: ウェス先生に日本についてわかってもらえるようにプレゼンする)

1. 他のグループのプレゼンを見て、その様子を評価しよう。
(評価項目にチェックを○、△で評価する)

| 自分以外のメンバーの発表 | G1 | G2 | G3 | G4 | G5 | G6 | G7 | G8 |
|--------------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 発表が聞き取りやすいか | | | | | | | | |
| 発表の順序がわかるか | | | | | | | | |
| 発表のスピードが適切か | | | | | | | | |
| 発表の態度がよいか | | | | | | | | |
| 発表の時間管理が適切か | | | | | | | | |
| 発表の準備が整っているか | | | | | | | | |
| 発表の道具が適切か | | | | | | | | |
| 発表の場所が適切か | | | | | | | | |
| 発表の音量が適切か | | | | | | | | |
| 発表の姿勢が適切か | | | | | | | | |
| 発表の表情が適切か | | | | | | | | |
| 発表の服装が適切か | | | | | | | | |
| 発表の挨拶が適切か | | | | | | | | |
| 発表の謝辞が適切か | | | | | | | | |
| 発表の質問が適切か | | | | | | | | |
| 発表のコメントが適切か | | | | | | | | |

2. 評価した結果に基づいて、より良いプレゼンにすることを目標として、自分または自分のグループの学習にできることを発見し、自分がさらにがんばることや、よりよくしたいことを書く。

図 10 プレゼンチェックシート

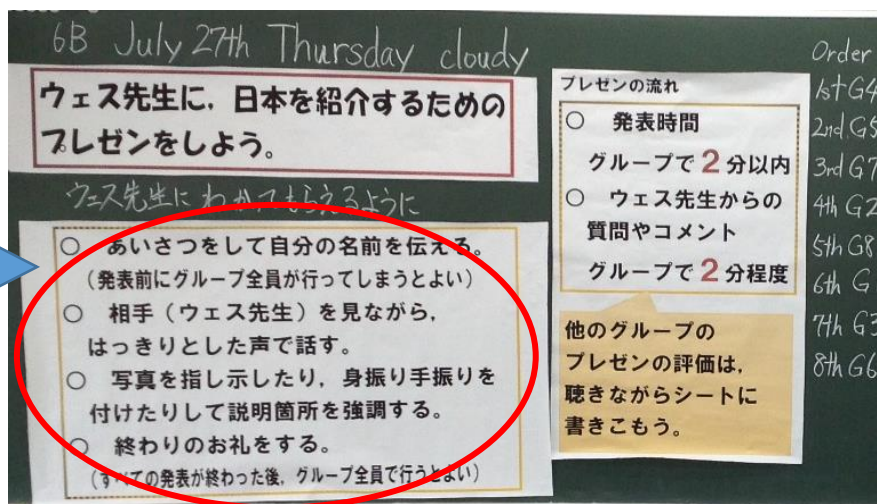


写真 11 第 10 時の板書の一部(めあて、発表の流れ・ポイント等)

【手立て 3】自分たちの発表を客観的に振り返ったり効率よく発表したりするために ICT 機器を活用する

各グループの子供たちが、より相手に配慮した発表を行うことができるようにするために、ICT 機器の活用は有効です。本実践では、発表の様子をタブレット端末で録画して、自分たちで見ながら改善点を探る場を設けました(写真 12)。自分たちの発表の様子と「プレゼンチェックシート」とを照らし合わせながら、改善点を見出していきました。そして練習を繰り返す中で着実に発表の仕方を単元のゴールにおける姿(単元の初めに視聴した動画にあった発表の望ましい姿)に近づけていきました。

また ALT に発表を行う際には、伝えたい内容を具体的に、既習の語句・表現、文の形でわかりやすく伝える必要があります。そこで、作った英語・写真カードを書画カメラとプロジェクターで投影し、説明箇所を強調しながら発表できるようにしました。子供たちは、必要な情報を考え判断し英語・写真カードを投影したり、説明部分を示したりしながら発表することができました(写真 13)。



写真 12 発表を録画する様子



写真 13 ALT に折り紙について説明する様子

授業者からのコメント

【成果】我が国の文化を伝えるための学習を通じた資質・能力の高まりが見られた

本実践では、表1のような「資質・能力を身に付けた子供の姿(例)」を設定し、実践を進めました。そして子供たちは学習を進める過程や単元末で、写真14と写真15のように学習を振り返りました。

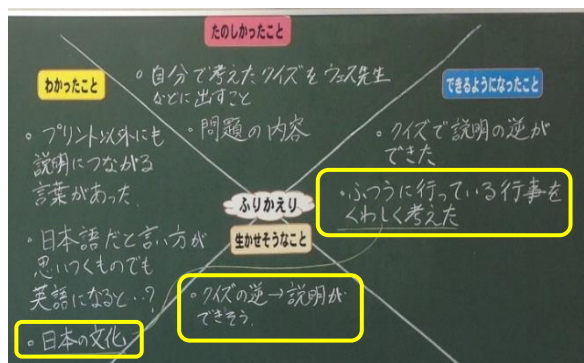


写真14 第4時の板書の一部(第3~4時の学習の振り返り)

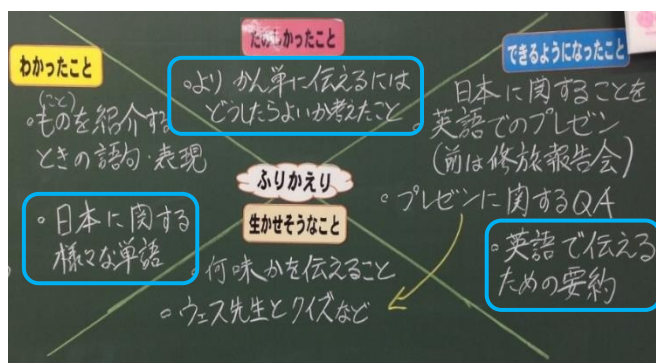


写真15 第10時の板書の一部(単元の学習の振り返り)

(1) 学習の振り返りを通して見る資質・能力の高まり

本実践を通して、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力等」はもちろん、異文化をもつ相手に対しても主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度が醸成されている姿、すなわち「学びに向かう力、人間性等」の高まりも見ることができました。例えば、写真14と写真15の色枠で囲んだ内容は、表1の「① 日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事について説明するために必要な語句・表現等を理解している」と「③ 日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事についての説明や自分の考えを、話したり書いたり、質問に答えたりするなどして表現している」ことにつながる内容です。

さらに子供たちは写真16のような英語・写真カードを作り、発表で使用しました。これを通して表1の「② 語句・表現を、綴りや語順等に気を付けながらカードに正しく書き写している」ことや「④ 既習事項を基にして単語を推測して読んだり、必要な語句・表現を選択して話したり書いたりしている」ことも達成したといえます。

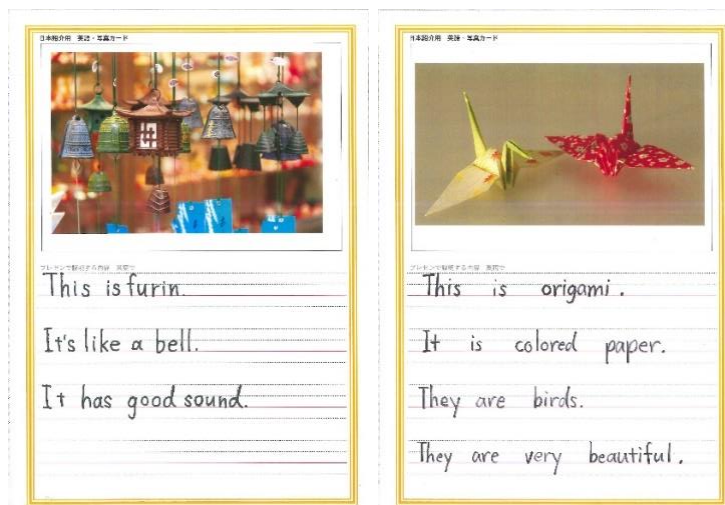


写真16 子供が作成した「英語・写真カード」

(2) 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる姿

これらを達成する過程で、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせながら学習を進めました。子供たちは説明に必要な情報を集め、整理し、要約しながら使える語句・表現、文の形に当てはめて再構築していきました。

① 簡単な英語で行う説明の手順に気付く

子供たちは、ALTに日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事について説明するために、それらを題材にしたカルタや3~4ヒントクイズを友達と行いながら、説明に最低限必要な語句・表現、文の形を押さえてきました。そして写真14の「クイズの逆で説明ができそう」という振り返り内容のように、クイズの答えの部分に先に提示し、その後ヒント部分をつけ、それぞれ適切な文の形で表すと簡単な説

明になるということに気付きました。これは必要となる語句・表現、文の形を押さえるためだけでなく、明確なコミュニケーションの目的をもってカルタやクイズを行ったことによる成果であると考えています。ラーメン、折り紙、風鈴、富士山、七夕など、子供たちにとっては馴染みあるこれらを、詳しく知らない相手に説明するという目的意識があったからこそ「クイズの手順を逆にすることで説明が可能になる」ことに、実感をもって気付くことができたのです。

② 説明に必要な情報を整理し発表で使う語句・表現、文の形を決め出す

気付いたことを生かして、ALT への説明内容を具体的に考えていきました。例えば風鈴です。子供たちは写真 16 のような風鈴の写真を見せながら、ALT もよく知っているであろう bell を活用し、This is *furin*. It's like a bell. と表しました。そしてカタカナ言葉にもなっている sound を活用し、It has good sound. と続けました。日本語で伝える場合は「風鈴は、夏に天井や下屋に吊るして飾るもので、とても小さな鐘のようなものやガラスでできたものがあり、風が吹くとリンリンと音が鳴って…」など詳しい説明を考えることができます。これを英語で伝えるのは小学生には難しいですが、説明に必要な情報を整理し、ALT はもちろん自分たちも理解可能な語句・表現で要約しながら再構築することで、説明が可能になります。絵や写真を見せたり、似ている別のものを例示したりするとより効果的です。

このように見方・考え方を働かせることにより、子供たちは我が国の文化について、これまでの学習で使ってきた語句・表現、文の形の中から必要なものを集め、ALT に発表することができました。そして学びの成果を実感したり、生かしたりすることができました。「主体的・対話的で深い学び」を通して資質・能力を身に付けつつあるといえるでしょう。

【課題】 学びに向かう力につながる子供の思いは引き続き大切に

学びに向かう力を一層高めるために、グループで ALT に発表する中で、紹介しているものに対する個人の思いを自由に表現するよう促しておくとうよかったと考えています。

例えば「どら焼き」について発表したグループがありました。発表した後に、ALT がグループの子供たちに Do you like *Dorayaki*? と質問しました。それに対しては、Yes. と答えていましたが、Is it your favorite snack? に対しては「ん～まあまあ」と答えていました。その後の What's your favorite snack? に対しても子供はやや考えていましたが、授業者が I like potato chips. How about you? と助け舟を出したところ、I like *Norishio* (flavor). と笑顔で答えることができました。

本実践の場合、ALT の質問に答える際に、既習の語句・表現、文の形を活用して子供が自由に個人の思いを表すことができる可能性がありました。しかし今回は班の中でまとめた内容を表すに留めてしまいました。子供 1 人 1 人の思いを十分に表せるような発表をつくることもできたでしょうが、その場合



写真 17 グループで日本について発表した後に ALT の質問に応じる様子

は使用する語句・表現が多岐にわたり、既習の語句・表現、文の形を活用するという目標から大きく外れてしまうことを懸念したのです。班としてまとめた内容を発表することとは別に、ALT からの質問に対しては個人の思いを存分に表すよう促しておくとうよかったです。これは既習の語句・表現を活用して即興で話す（やり取りする）力の向上にもつながると考えます。

本実践では、「主体的・対話的で深い学び」を保障する手立ての1つとして、興味・関心が合った子供同士によるグループをつくりました。グループの編成は、子供1人1人が発表してみたいと思ったもの（代表的な日本の食べ物、遊び、道具、名所、行事の中から選んだもの）に基づいて教師が意図的に行い、グループ間で発表内容が重複しないよう調整しました。グループ内で発表内容を吟味し、各グループの発表を通してALTに多くのことについて紹介できるようにするためでした。これに関して授業公開後の事後研の中では、「発表内容が他の班と重複してもよい、いろいろな班から異なる表現で出てきたことがいちばんの紹介になりそう」といったご指摘をいただきました。

この度の実践で得られた課題については、今後の授業実践の中で改善を図っていく所存です。

○ 事後研でいただいたご指導・ご助言等

本実践における授業公開後の事後研において、たくさんのご指導・ご助言等をいただくことができました。改めて厚くお礼申し上げます。

(1) 本校の研究に対する内容

○ 「主体的・対話的で深い学び」を保障する3つの手立てが単元・授業で明確になっていることによって、小学校英語科において「5つの技能を実際のコミュニケーションで活用する学習の充実を図る」ことができていた良い例であった。【新学習指導要領の趣旨の実現に関する内容】

(2) 「主体的・対話的で深い学び」を保障する3つの手立てについての内容

○ 目標を明確にして、コミュニケーションの目的・場面・状況（つまり課題）を子供たちと共有していたので、ALTの状況というのも子供たちはよくわかっていてプレゼンテーションを用意しているのだということがよく伝わった。【手立て1】

○ 主体性を発揮している振り返り内容もあれば、汎用性を確認できた振り返り内容もあった。目的を達成するために考えた方法を伝えようともしていた。こういう学びに向かう力が育つということと、1時間の学びが深まるということは、一体的に醸成されるのだという見方ができた。【手立て1】

(3) 本単元における「資質・能力」を身に付けた子供の姿についての内容

○ 振り返りをやっているときに、「英語でプレゼンテーションができるようになった」と言った子供がいた。これは目標になっていることだから、そのように振り返ったことに感銘を受けた。

● プレゼンの内容が重ならないようにしていたが、重なってかまわない。プレゼンテーションで同じものを紹介するにしても、いろいろな班から異なる表現で出てきたことがいちばんの紹介になりそう。

● （子供たちに）もう少し思いは込めてほしいと思った。これまで学習してきた表現をリアルな場面で繰り返し使うチャンスをもっと生かしたかなと思った。（特に好きな点を強調して説明する。ALTにはご自分の状況を理解していただいて、Thank you for your recommendation!などと言ってもらい、子供たちがYou're welcome.などと言って終了するなど）

意見：今日発表したもの・ことに対して子供たちが選んだ理由もプレゼンで表せば、子供たちの発表したい気持ちも高まる。子供たちからのおすすめという意識の高まりがもっとあればよいのではないか。

(4) 感想など

○ 聞いたり読んだりしたことについて考えたこと、感じたことをまた伝える、発信するということが求められている。本時で発表の後にやり取りが位置付けられていたことはたいへんよかった。